

## 平成 28 年度 高知県公立学校事務研究会香長支部 第 1 回研修会

平成 28 年 7 月 12 日 (火) / 香美市基幹集落センター 14:00~16:45

- 1) 開会 14:00
  - ・ 支部長あいさつ
  - ・ 自己紹介
  
- 2) 平成 28 年度 香長支部研究内容について 14:05~14:30
  - (1) 平成 28 年度研究テーマおよび研究内容について  
調査研究部長より
    - 研究テーマ：昨年度に引き続き「地域の学校事務の組織力と質の向上をめざす」
  
    - 研修計画：年 2 回を予定、第 1 回目は本日、第 2 回目は 12 月
  
    - 研修会場：今回は香美市香北町で行い、第 2 回は香南市を予定（前年度大豊町と南国市）
      - ・ 香長支部の各地域を見るのも研修という観点から数年前から会場を持ちまわり
  
    - 研究内容：実務研修等を通じて、主に引き続き『防災について』
      - ・ 来年度、県大会で香長支部は発表担当
      - ・ 前年度の研究内容を問うアンケートより
      - ・ 12 月の支部研修会は、来年度県大会発表のため重点的に研究
      - ・ 防災シチュエーションシート（サービス編）の作成
        - ※ 防災については、25 年度に県大会で発表した内容を防災シチュエーションシートサービス編の経緯などを県事研発行のわかたけ第 45 集に記載
  
  - (2) 平成 28 年度香長支部の運営について（支部組織）
    - 運営体制・運営規定についての確認  
第 2 条と第 11 条（諸会計）※ 臨時採用職員や育休途中復帰の方からは、徴収しない。
  
    - H27 会計報告 全会承認で可決
  
    - H28 予算案の提案・議決 全会承認で可決
  
- 3) 研修報告「平成 27 年度 学校組織マネジメント指導者養成研修」 14:30~15:00  
～ 「教育改革の動向について」 文部科学省 大臣官房審議官の講義より～  
香南中学校 主幹
  - ・ グローバル化の進展と我が国のプレゼンスの低下  
世界の GDP に占める日本の割合が低下し、日本の存在感が下がっている。
  
  - ・ 急速な少子高齢化  
日本の少子高齢化は、世界一速いスピードで進んでいる。  
少子高齢化により、約 50 年後には総人口が約 3 割減少、65 歳以上の割合が総人口の約 4 割に達する見込みである。
  
  - ・ 生産年齢人口の減少  
生産活動の中心となる 15 歳以上から 64 歳未満の人口が、2060 年には半減  
これからの支える若い世代に力をつけることが喫緊の課題である。
  
  - ・ 我が国の大学の存在感の低下  
世界の大学ランキングは、全体の評価が下がり、100 位以内に入っているのが東京大学、京都大学のみとなっている。  
グローバル化の遅れが表れている。世界に通用する英語、語学力が大事である。

- ・海外留学者数の減少  
海外留学者数が増加する中、日本人だけが減少傾向にある。日本は、こういった状況を転換していくことが非常に重要になってくる。
- ・グローバル人材の育成  
日本人としてのアイデンティティや日本の文化に対する深い理解を前提として、豊かな語学力・コミュニケーション能力、主体性・積極性、異文化理解を身につけた様々な分野で活躍できるグローバルな人材の育成が重要である。
- ・今後の成長分野  
AI・人口知能の進展で、IOTの拡大、インターネット技術の拡大、ロボティクスの発達、ロボットの開発などが、期待される成長分野である。こういった分野での人材育成が必要になってくる。
- ・高大大接続改革とは  
文科省の考えとしては、大学と高校と大学入試の3つを合わせて改革することである。
- ・学習指導要領の改訂の視点は新しい時代に必要となる資質・能力の育成  
資質・能力の「三本柱」  
「何を知っているか、何ができるか」（個別の知識・技能）  
「知っていること・できることをどう使うか」（思考力・判断力・表現力等）  
「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」（人間性や学びに向かう力等）  
目指すべきところは「何ができるようになるか」そのために、「何を学ぶか」それを「どのように学ぶか」ということ。
- ・アクティブラーニングの視点からの授業改善  
「アクティブラーニング」は、これまでの一方的な知識伝達型の授業方法から脱却、子どもたちの質の高い深い学びを引き出すことを意図する授業である。  
「アクティブラーニング」の不断の授業改善ということでキーワードになる3点は、「深い学びの課程」「対話的な学びの課程」「主体的な学びの課程」ということ。
- ・日本の教員が、世界で最も長い労働時間ということが課題になっている。

#### 4) 防災シチュエーションシート演習 15:10～16:40

##### ①シチュエーションシート5

Q：週休日等の部活動指導中に災害が発生した場合の特殊業務手当はどうか？

例 8:30～12:30 学校で練習（予定）

10:45 災害発生

20:00 生徒引き渡し完了

○グループA～Fに別れ、上記の例について【高知県教育関係職員必携（赤本）】等を使って根拠となる条例も一緒に考える調べる研修を行った。

##### 【教員特殊業務手当】

職員の給与の支給等に関する規則第7条別表2の4（P1195～）

8:30～10:45 2:15 部活動2に該当（P 1198）

10:45～20:00 9:15 非常災害時における児童若しくは生徒の保護  
又は緊急の防災若しくは復旧の業務に該当（P 1195）

⇒それぞれに手当が、支給されるのではないのでしょうか？

職員の給与の支給等に関する規則第7条の3 高知県教育関係職員必携P1163	特殊勤務手当が、同じ日に2つ以上の支給要件に該当する場合は、上位の区分、その区分が業務又は作業に対する特殊勤務手当を支給するものとする。
公立学校職員の給与に関する条例第16条の2表4 高知県教育関係職員必携P892	非常災害時等の緊急業務、学校管理下に行われる部活動の指導業務（教員特殊業務手当） 1日当たり6,400円を超えない範囲内で人事

	委員会規則で定める額
--	------------

A：手当支給が、同じ日に2つ以上の支給要件に該当する場合は、支給区分が、上位の非常災害時の緊急業務のみ支給となる。

②勤務管理表について

・様式について追加の項目や改善をグループ協議した。

グループA	資料1	管理職も手当が支給されるので、記入しておく
	資料1・2	どのタイミングで確認印を押すのか/確認、表記、サイン
	資料2	時間帯を入れる
グループB	資料1	校外勤務における場所と時間
		出勤できない場合の例
		P1195(1)「学校管理下」どこまで？
	あらかじめ名前を入れて、打ち出したら良い	
資料2	(職員以外用は)勤務として学校に来校された公務員、民間はボランティア？その人は書く必要はないのでは？	
		勤務時間を書く必要がある
グループC	資料2	例の様に一覧表を特定の場所に置き、個人が記入する方法にしたかどうかと一方では、個表にしてとにかく先生に記入してもらう
		氏名は、あらかじめ印字して、備考欄の右側にサイン方式か、本人又は、代筆者が記入するやり方が出された
	資料1	勤務時間もあると良い
	資料1・2	職員等が、何を記入すればよいのかを分かるように
		備考欄は、何を記入するのか、具体的な内容例を下段に印字しておくが良い。
グループD	資料1・2	紙の調達・管理面でA3では大きい
		個表であると後でまとめやすい
		個人で書くので分かりやすい表現を
		開始時刻が、職員に分かりにくいのでは？
	あみかけは、いらない	
	確認欄が必要	
資料2	職員以外用は、後で勤務する学校に持って帰った場合、他の職員の情報を持って帰ることになるので、個表の方が良い	
		時間がない
		連絡先は必要ですか？
グループE	資料1・2	個人の表が必要と思われる(確認印が必要)
		なるべく広い範囲で統一することが、必要と思われる
		個人の記録をしておかなければならないことの周知が必要と思われる
グループF	資料1・2	特殊業務手当の観点で見ると、整理簿を1日記入して提出決裁をもらう方が合理的では？
		手当だけでみた方が良い(公務災害を考えるとトータルに)
		避難所運営の立場から控える必要があるかもしれない

		災害の程度によって、この勤務管理表によらなくてもよい
		管理表ですべてを網羅できるなら良いが、おいおいの出張伺を書いてもらう必要ある？
		個人のメモとするとしても項目を示す必要がある
	資料2	他校の教職員の勤務管理表を自校の管理職が管理すべきなのか？

5) 事務連絡・閉会(会場整理)

16:40~16:45